

スモモ新品種「ハニーローザ」の特性

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

農林水産省果樹試験場で育成された「ハニーローザ」の本県における樹勢、結実性、果実品質等の特性及び地域適応性を検討した。

研究の成果

1. 来歴

「ハニーローザ」は農林水産省果樹試験場において、「ホワイトプラム」の自然交雑種子から得られた品種である。

2. 特性

(1) 樹勢

樹勢は中程度で、樹姿は開張性で、枝の発生はやや多い。短果枝及び雌花の発生も中程度である。

(2) 結実性

本種は、自家不結実性であり、開花期が早いため年により結実の劣ることがあるが、適当な受粉樹を混植することで結実は良好となる。

(3) 果実特性 1

収穫期は、6月中・下旬頃で大石早生と同時期である。果実の大きさは40～50g程度とやや小さめであるが、果粉を有するので外観は美しい。果形は円形で果頂部がやや狭い。果皮は黄紅色で果肉は淡黄色である。

(4) 果実特性 2

糖度は15%前後で同時期の大石早生より4～5%程度高い。酸味はpHで3.8前後となり大石早生よりも少なく、品質は良好である。

果肉は柔らかく、肉質はなめらかで果汁は中程度で、食味は早生種としては極めて良好である。

3. 栽培上の留意点

開花期の早い品種を受粉樹に用いる必要がある。

結果過多になると、小果や隔年結果を招くので適切な結実管理を行う。

第1表 ハニローズの果実の特性（平成6年度）

品 種	果形	果 皮				果 肉			空洞	日持ち	品質
		地色	着色	果粉	裂果	色	肉質	果汁			
ハニローズ	円	黄	黄紅	多	無	淡黄	軟・密	中	有	ヤ不良	上
大石早生	円	黄	黄紅	多	無	黄	軟・密	多	無	ヤ不良	中

第2表 ハニローザの開花期、収穫期及び果実品質（平成3年～平成6年）

年 度	品 種 名	開花盛期	収穫盛期	成熟日数	果実重	糖度	pH
		月/日	月/日	(日)	(g)	(%)	
平成3年	ハニローザ	3/24	6/22	90	40.4	13.6	3.57
	大石早生	4/1	6/21	81	74.4	8.9	3.42
平成4年	ハニローザ	3/19	6/16	89	47.7	17.6	3.94
	大石早生	3/24	6/16	84	89.5	13.3	3.67
平成5年	ハニローザ	3/24	6/25	93	38.4	11.7	3.84
	大石早生	4/5	6/25	81	63.4	8.9	3.42
平成6年	ハニローザ	3/28	6/17	81	43.5	15.8	3.74
	大石早生	4/5	6/16	72	63.2	10.9	3.18